

# 系図も地図も まるごと偽作

江戸時代後期、南山城（現在の京都府木津川市）に住む椿井政隆（1770～1837）が、中世の文書を装って偽造した「椿井文書」。この偽文書群を集めた特別展が、大阪府富田林市の大阪大谷大学博物館で開かれている。

政隆は、土地などを巡る争いごとの場に現れ、一方の主張に有利な偽文書を作成して提供。登場する人物の系図や署名した連判状など、関係する文書をまるごと偽作して信憑性を高めた。その「手口」と、これらの偽文書が近年まで近畿の地域史研究で重用されてきた事実は、馬部隆弘・中京大教授の著書「椿井文書」（中公新書）で紹介され、大きな反響を呼んだ。

政隆は自身の家系も偽装。現在の奈良県平群町にあった「椿井村」に古代から拠点を置いた氏族で、戦国期に現在の木津川市に移り住んだ、という系図を作り出した。特別展では、南山城から尾張へ移った尾張椿井家の子孫が「祖



椿井文書の様々な手口について  
学生に説明する馬部隆弘さん  
（左）いずれも大阪府富田林市

## 大阪で「椿井文書」展

先の地」と考え、平群町に寄贈した文書群を多数展示。同家も偽文書を手に入っていたことが分かる。

政隆が偽文書を本物らしく見せるため、複数の筆跡を使い分けたことを示す文書や、中世の絵地図を偽作するために書き写した江戸期の地図なども並ぶ。

企画した馬部さんは「椿井文書の関係資料をこれだけ集めた展示は初めて。偽文書が、なぜ広く受け入れられてしまうのかを考えてもらうきっかけになれば」と話している。

19日まで。大阪大谷大学博物館（0721・24・1039）は午前10時～午後4時開館、日曜休館。入館無料。（今井邦彦）



絵図に押された印鑑にあった椿井政隆の自画像とみられる後ろ姿